

第5日の成績	板野	13—2	小松島西
	城北	4—2	徳島科技
	生光学園	8—1	徳島北
	鳴門	3—0	富岡西
▽1回戦		▽2回戦	



第5日

高校野球の第105回全国選手権徳島大会第5日は16日、鳴門オロナミンC球場で1回戦3試合と2回戦1試合が行われた。第4試合の2回戦は第1シードの鳴門が3-0で富岡西に完封勝ちし、8強に一一番乗りした。1回戦では、城北が4-2で徳島科技に競り勝ち、生光学園は8-1で徳島北を八回コールドで破った。板野は13-2で小松島西を五回コールドで下した。第6日の17日は、同球場で2回戦3試合が行われる。



生光学園工一ス力投

徳島北投手陣制球に乱れ

で7回を1点に抑えた。  
序盤から150点台を連  
発し、変化球を効果的に  
打に四球や犠飛、スクイ  
ズなどを絡めて5得点。  
五回に安藝、八回には渡

の、2投手が7と四死球と踏ん張れなかつた。  
徳島北・岡良真（川勝投手から右越え一口本塁打。負けては意味がない

# 最速152キロ 三振の山

生光学園  
工二

ヤマ場は五回。先頭打者山  
く入った直球を右腰裏では  
れ、スイッチが走る。4回目で  
152キロを出し、続打を逃す三  
振に切った。「あとは逆アドを  
上げた」と川勝。昨秋からハ  
ンマークを組む横浜は「以前は  
打たれるほどボールが荒れてい  
た。切り替わるやうになつた  
てすごみが増した」と喜ぶ。  
成長を感じる横浜は  
秋とも言ふ敗れた闇門への憂鬱に  
燃える。「自分の役割をきっち  
り果たし、甲子園に行きたく  
て頂点を目指した」。

1球ことはスタンドを沸かせた。生光学園のエース川勝が先頭打者の初球に148gの直球を投げると、4、5球目に151gを連発。7球目には152gに達し、直前の結果を出でに超えた。自分最速を叩いた。チームを初戦突破に導いた2年生石腕は「いい感じ。貢献できてよかった」と涼しい顔を見せた。

登板した7回のうち4マークで100g台をマークした。「コンスタントに出せるようにこなったのが成長の証し」と喜んで監督は目を細める。マシン打撃で対策してきた徳島北打線のタイミングが合い始めた。今回以降はスリーリットとドライバーを